

「主に望みをおく」

イザヤ書 第40章27-31節

本学講師・日本キリスト教団滝野川教会牧師 東野 尚志

新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に減少し、一時は五千人を越えた第五波も収まりを見せています。日常生活における厳しい制限が少しずつ緩和され、明るい望みが見えてきたような気もします。しかし、その一方で、人の動きが活発になれば感染の機会も増え、年末年始の頃に第六の波が来るのではないかという恐れと不安を拭えずにいるのが現実です。日本では、まだ当分、マスクを外せない日々が続きます。

コロナ禍のために、リアルな触れ合いが減り、絆を結ぶ機会もないままに、孤独を感じている若者が多くいと伝えられます。10代、20代の自死が増えているという報道に心が痛みます。生きることの意味や喜びを見いだせず、その若さで人生に絶望して死を選ぶのは、あまりにも悲しすぎます。これまで日本の社会が抱えてきた歪みが、コロナのために顕わになってきたのかもしれない。

旧約聖書の時代、ユダヤの民は自分たちの国が滅ぼされ、捕虜として敵の国に連れて行かれるという屈辱的な経験をしました。その中で、神の民イスラエルは、もはや、自分たちの道は主の前に隠されてしまい、自分たちは神に見捨てられた、と言って嘆いたのです。けれども、神から遣わされた預言者イザヤは、神はとこしえにいます方、すべてのものの造り主であって、ご自身に立ち帰るものを、決してお見捨てになることはないと言います。そして、神を信じて、絶望することなく、望みに生きる道を説いたのです。預言者は語ります。

若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れようが

主に望みをおく人は新たな力を得

鷲のように翼を張って上る。

走っても弱ることなく、歩いても疲れない。

私たちが生きている現代という時代も、コロナをはじめとして、さまざまな困難や痛み、心と体に重くのしかかる悩みと疲れに満ちています。しかし、そういう中で、自分の思い通りに生きられないことで、人生を嘆いたり、あきらめたりしないでほしいと思います。聖書が証しする神は、確かな目的をもってこの世界と私たちをお造りになり、御子イエス・キリストによって、私たちが救おうとしておられるのです。

社会にも、自分自身にも、何の望みも見いだせないとき、神の御心を信じて、主に望みをおくことを学んで欲しいと思います。あなたの命の造り主である神は、決して、あなたを見捨てることはありません。主なる神は、私たちが滅びの絶望から救い出すために、大切な独り子を遣わしてくださり、御子イエスは、私たちの罪と嘆きと絶望をすべて引き受けて、私たちのために救いの道を開いてくださいました。そして、苦しみ嘆く者に寄り添い、十字架の傷を刻んだ手でしっかりと守り支えてくださいます。「主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない」。

この約束の言葉を、心に刻んでください。そして、生きることに疲れを覚えるとき、この言葉を、思い起こしてください。平安を祈ります。

天の父なる神さま、あなたは、この世界と私たちの命をお造りになり、あなたに背いた世界と人間をなおもお見捨てにならず、御子イエス・キリストによって救いの道を開いてくださいました。どうか、まことの主であるあなたと、この世界と私たちに対するあなたの愛の御心を信じることによって、私たちが繰り返し、望みをもって立ち上がることができますように、導いてください。新たな力と勇気を与えてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

2021年10月28日 聖学院大学 全学シリーズ礼拝「聖書が語る希望」